

君もスティックを探してみないか

金子 大輔

※この記事は「みんなの北星 AdventCalendar2023」19日目の記事です。

(<https://adventar.org/calendars/9135>)

私の趣味はいろいろあって、去年は先祖捜しについて記事を書きました(<http://www.ipc.hokusei.ac.jp/~z00515/article/221213roots.pdf>)。ルーツを探るのもとても楽しいですし、最近ではNHKのファミリーヒストリーで草刈正雄の話もあって盛り上がっているようです(<https://www6.nhk.or.jp/nhkpr/post/original.html?i=39493>)。ちなみに草刈正雄の回の再放送は2023.12.28に、特別編が12.29にそれぞれ放送されるようなので、興味のある方はぜひご覧ください。

今年は何について書こうかなと思っていたのですが、私がかんがりのめり込んでいる「音楽」について書こうと思います。音楽は聴くのも好きですが、もちろん自分が演奏することも好きです。

私と音楽（演奏）の出会いは高校時代まで遡ります。高校に入学して横に座ったTさんから、吹奏楽部に入ってみない？と声をかけられたのがきっかけで、吹奏楽部に入ることになりました。ただ、楽譜が読めなかった（今でもそれほど読めません）こともあり、打楽器（いわゆる太鼓系）を担当することになりました。Tくんには吹奏楽部だけでなく、地元のジュニアオーケストラにも誘われ（当時打楽器がいなかったため）、そちらでもお世話になりました。

部活はすごく楽しかったですね。そこでの楽しい経験が忘れられず、大学に入っても吹奏楽を続けました。大学卒業後はバンドを組んだりオーケストラをやったりなどいろいろしていましたが、現在は札幌ユース吹奏楽団(<http://s-youth.main.jp/main/>)という一般の吹奏楽団で、もう十数年打楽器奏者として活動しています。あ、もちろんバンドも続けていますよ。「花の虜」というバンド(<http://hananotoriko.net>)です。1997年結成ですので、去年は結成25周年を記念して20年ぶりにアルバムを作成しました（ジャケットイメージを図1に示します）。アップルやYouTubeなどからも聞くことができますので、ぜひお



図1 花の虜のニューアルバム

聞きください。このバンドは名古屋を中心に活動しています。ということは、練習は私が帰省するタイミングでしかできません。年に1回2回の練習でなんとか頑張ってるっていうバンドです。暇な皆さん、一緒にライブがしたいですね！

さて、こうやって考えるともう30年以上太鼓やドラムをたたっているわけです。ドラム奏者にとって一番重要なものは何かと言えば、やっぱりスティックですよね。スティックは消耗品なので削れたり折れたりするたびに何度も買い換えます。また、スティックの形や素材も様々です。そのため、自分がどのようなスティックを選ぶかは結構奏者のこだわりが出たりします。私の場合ですが、クラシックでスネアドラム（小太鼓）を叩くときは、2種類のスティックを使います。東京都交響楽団のティンパニ&打楽器の首席奏者である安藤芳広先生（<https://www.tmsso.or.jp/j/tmsso/member/ando-yoshihiro/>）がおすすめしてくれた、PlayWoodのClassic-10C（材質はコンプライト）か、Japan Percussion Center（JPC）でたまたま見つけた Rohema のスティック（素材はローズウッドでこっちの方が繊細な音がする）です。

ドラムを叩くときはまた別のスティックを使います。実は最近使うスティックを変えてみました。これまではTAMAのO214-B（素材はオーク）を使っていました。オークは堅いのでパワフルな音がします。もう20年以上このスティックでドラムを叩いていました。多くのドラマーが使っているスティックの素材はヒッコリーです。しかし個人的には、あのすべすべした感じがしっくりこなくて、ずっとオークのスティックを使っていたのですよね。しかし、今年7月頃から、LERNIのH-145TS（崎山龍男シグネチャーモデル、材質はヒッコリー、図2）を使い始めました。

きっかけは、今年6月にスピッツがHitaruに公演に来たときに、ドラムの崎山さんが使っていたスティックがそれだったからです。ライブが終わった後に、崎山さんが投げたスティックをキャッチしたうらやましい人をお願いして写真を撮らせてもらいました（図3）。僕も崎山さんのようなドラムが叩きたい、と20年前からいつも思っていたのですが、その時に



図3 購入した LERNI H-145TS 崎山龍男モデル

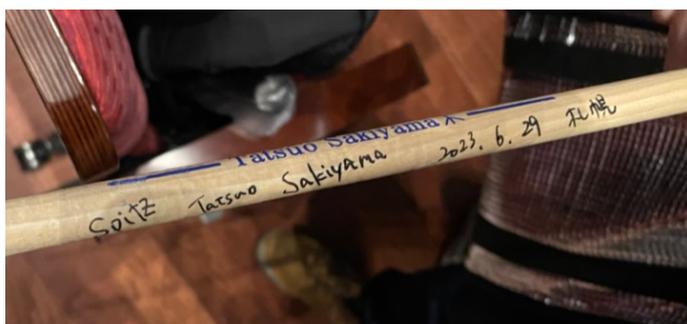


図2 崎山さんが投げたスティック

ひらめいたんです。そうか、まずはスティックと一緒にすれば良いのだ・・・！というよく分からない結論に至り、とりあえずスティックを変えてみたのでした。

実際にそのスティックでドラムを叩いてみると、O214-B よりも少し太いこともあり、多少の違和感はありました。ただ気分は崎山さんですから、何か自分のドラミングがより高まったような、そんな気持ちで叩くことができます。先日、所属している札幌ユース吹奏楽団の定期演奏会が11月26日に、ホワイトクリスマスコンサートが12月17日にありましたが、それはそれは気持ち良く叩くことができました。気持ちは良かったものの、それで実際に上手く叩けていたかどうかはまた別の話ではありますが・・・

なお、私はティンパニも演奏しますが、それはそれで別にバチ（スティックではなくマレットと言います）を用意しています。現在使用しているのは「加藤マレット」と言われるもので、KATO B.K.（カトー撥工房）が制作しているマレットです。値段もソコソコしますから、私はJPCに行ったときに1セットずつ購入して集めました。現在は、KATO B.K. グルントーン SH-35、H-45、MH-55、MW-75 の4種類をメインに使っています。最初に購入したのは SH-35 で2016年8月のことです。図4は購入記念にJPCで撮影した写真です。

それより前に使っていたマレットは、プレイウOODのPro-100 や 300 シリーズでしたが、1度加藤マレットを使うとなかなかプレイウOODに戻れません。シャフトは基本竹なのですが、そこに付いているマレットグリップチューブがいい感じで重心を変えており、それが付いていないマレットだとなんか違う感じになってしまうのです。1度プレイウOOD用に単品でグリップチューブを買って付けてみましたが、どうもしっくりこないんですよね・・・



図4 初めてのSH-35

とまあ、このようにスティックやマレットを複数種類所有している人は結構いて、やれどのスティックが良いだのどのマレットがやりやすいだの、という話をしています。これ以外にも鍵盤打楽器や小物のスティック・マレットなどもあり、話題は尽きません。

というわけで、あなたもこのめくるめくスティックの世界に足を踏み入れてみませんか？まずは推しスティック選びからですかね。とりあえず私もお手伝いしますから、一緒に探しに行きましょう！いつでも遠慮なくご連絡ください。(<https://twitter.com/daisuke1021>)